

平成27年2月27日

## 「第2回 吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」の開催について

吉野川流域（徳島県内）において、河川を拠点とした生態系ネットワークの形成を図り、自然からの恵み豊かな地域づくりを進めるために、生態系ネットワーク形成の目標や、多様な主体の協働による具体的な事業展開の方策を検討するために設置した「吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」の第2回目の委員会を開催します。

1. 日時：平成27年3月6日（金）13：30～16：30
2. 場所：徳島河川国道事務所 2階第一会議室
3. 議事次第（案）
  - （1）目標・基本方針について
  - （2）プロジェクトについて
  - （3）今後の進め方について
  - （4）その他
4. 委員名簿（別紙-1のとおり）

### ※報道機関の皆様へ

会議は公開とします。撮影は会議の冒頭（頭取り）までとさせていただきます。

### ※一般傍聴希望者の皆様へ

本委員会の傍聴を希望される方は当日会場に13時までにお越しください。

なお、一般傍聴席は5席程度確保しています。受付は先着順とし、満席になり次第受け付けを終了します。その際は御了承下さい。

（傍聴要領：別紙-2のとおり）

本施策は、四国圏広域地方計画「NO.5 圏域の連携による発展に向けた地域力向上プロジェクト」の取り組みに該当します。

国土交通省 四国地方整備局  
徳島河川国道事務所

### 【問い合わせ先】

国土交通省 四国地方整備局 徳島河川国道事務所  
TEL：088-654-2211（代表） TEL：088-654-9176（直通）  
副所長 清水 宰（内線206）  
◎河川環境課長 松本 司（内線361）  
◎：主たる問い合わせ先

## 吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会 委員名簿

区分	専門	氏名 (敬称略)	所属・役職等	
学識者	生態系	かまた まひと 鎌田 磨人	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授	委員長
	魚類・河川環境	かわぐち よういち 河口 洋一	徳島大学工学部建設工学科 准教授	
	植物	きのした さとる 木下 寛	徳島県植物研究会 会長	
	環境工学・ 生態系工学	こうづき やすのり 上月 康則	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授	
	鳥類	こばやし みのる 小林 寛	元徳島市教育員会 教育長	
	魚類	さとう よういち 佐藤 陽一	徳島県立博物館自然課 課長	
	河川工学	むとう やすのり 武藤 裕則	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授	
NPO・ 民間	干潟・自然観察	いぐち りえこ 井口 利枝子	とくしま自然観察の会世話人代表	
	自然の保全再生等	かしもと こうじ 榎本 幸実	日本ビオトープ管理士会徳島県支部 代表	
	河川環境学習	しおざき けんた 塩崎 健太	特定非営利活動法人川塾 代表理事	
	地域経済	なかがわ まさる 中川 勝	徳島経済同友会 事務局長	
	河川環境学習	ふじかわ まさひと 藤川 雅仁	AMEMBO 代表	
	日本野鳥の会	みやけ たける 三宅 武	日本野鳥の会徳島県支部 支部長	
行政		たけしま まこと 竹島 睦	国土交通省 徳島河川国道事務所 事務所長	
		もり なおき 森 直紀	徳島県 河川振興課 課長	
		おぐら のりあき 小椋 昇明	徳島県 自然環境戦略課 課長	

## 「吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会」 傍聴要領

### (主旨)

この要領は、吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会（以下「委員会」という。）の議事を円滑に進めるため、傍聴に関し必要な事項を定めたものです。

### (傍聴)

- 1) 会議を傍聴しようとする者は、会議場に入室する前に受付において「傍聴者受付簿」に必要事項を記入し、「傍聴」と記載されたプレートを着用して下さい。
- 2) 傍聴者席については、5席を確保しています。受付は先着順とし、満席になり次第受付を終了します。その際はご了承下さい。
- 3) 委員会の円滑な進行のため、傍聴者は会議場内において次の事項を遵守して下さい。
  - ①会議における言論への批判、可否の表明、拍手などをしないこと。
  - ②発言、私語、談論などをしないこと。
  - ③許可なく写真やビデオ撮影、録音などをしないこと。
  - ④会議中、携帯電話は電源を切るか、マナーモードに切り替え、使用しないこと。
  - ⑤前号に掲げるもののほか、会場の秩序を乱したり議事の妨害となるような行為を行わないこと。
- 4) 事務局は、傍聴者が前項に掲げる事項を遵守しない時は、傍聴者を退場させることがあります。
- 5) 会議の非公開の決議があったとき又は委員長が退場を指示した時は、速やかに退場して下さい。
- 6) 希少動植物の保護の観点から委員と傍聴者に資料は異なるものを配布する場合があります。
- 7) 以上のほか、傍聴者は事務局の指示に従って下さい



### (3) 事業内容

吉野川流域生態系ネットワーク形成は、以下の2段階での実施を想定。

#### ■検討段階

①現状や課題の整理

②目標や基本方針の設定

③プロジェクトの設定（プロジェクト数については今後の検討による）

④プロジェクトごとの取組メニューや実施主体の設定

⑤多様な主体の参加・協働による実現方法の検討

例) 顕彰や広報などのインセンティブの検討  
協働のための仕組みの検討など

#### ■実施段階

⑥〈仕組み〉の整備と運用

⑦パイロット事業の実施

⑧事業や取組の本格実施

### 吉野川流域生態系ネットワークのイメージ

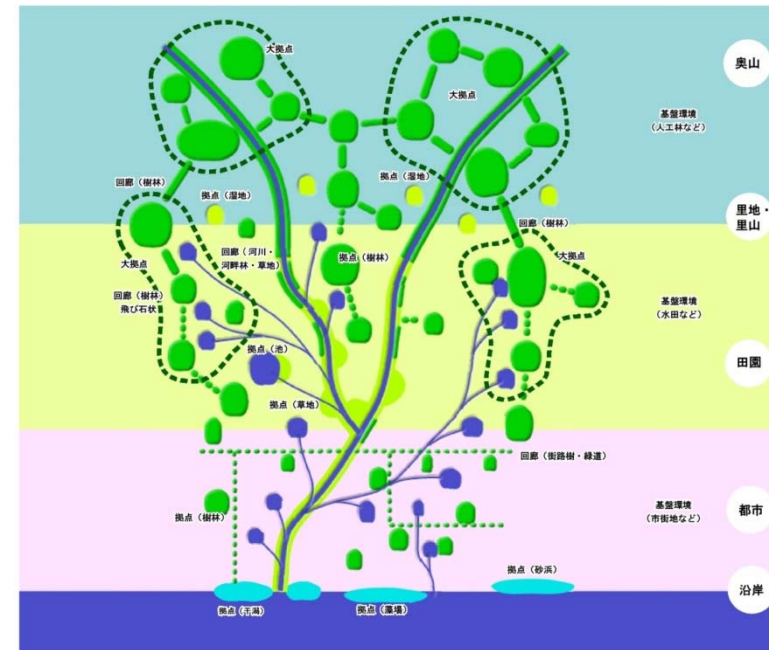
複数のプロジェクトを設定

#### ■プロジェクトの一例

●吉野川の水際の豊かなエコトーンの形成（吉野川中～上流域）

●魚が往来する豊かな川づくり（吉野川流域全体、河川 ↔ 用水路、水田含む）

●水辺のビオトープ（河川外も含む）のネットワーク形成（吉野川中～下流域）



生態系ネットワークのイメージ



## 第1回 吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会の開催について

平成26年12月24日、徳島河川国道事務所にて、第1回目の吉野川流域生態系ネットワーク検討委員会が開催されました。

本委員会は、吉野川流域（徳島県内）において、河川を拠点とした生態系ネットワークの形成を図り、自然からの恵み豊かな地域づくりを進めるために、生態系ネットワーク形成の目標や、多様な主体の協働による具体的な事業展開の方策を検討することを目的としています。

第1回の委員会では、委員15名が出席し、委員長に徳島大学の鎌田磨人教授を選んだ後、規約の承認、検討の枠組みの確認、準備会の意見の取りまとめとこれからの進め方について意見を交わしました。

検討はワークショップ形式で行われ、吉野川流域における生態系ネットワークの形成に向けて、守りたい生き物・場所や、想定される利活用プロジェクト、課題等について抽出しました。

### 【主な意見】

#### ○守りたい

- ・生き物等：サツキマスのネットワーク、スジアオノリ、シジミ、河川敷のカヤ・ヨシ、カヤネズミ、アユ、ジンゾク、川ガキ、ナガレホトケドジョウ等
- ・場所：汽水域と点在する干潟、シギ・チドリの渡来地、四国一の清流吉野川、吉野川中上流の竹林、レキ河原潜水橋等

#### ○課題

- ・小河川の汚濁、外来種、レンコン畑の縮小、魚道の構造（魚が上りにくい）、パッチン掘り、河川敷での模型飛行機・水上バイク、土砂管理、水辺の楽校などの利用、川を活用した環境教育の子供たちの移動サポート、アドプトプログラムの向上と充実、竹林管理ができていないため治水上も生態系上も劣悪、カワウのコロニー、活動グループのネットワーク化、川の事故、ごみ、川遊びの機会の提供等

#### ○利活用

- ・水辺の生物を観察できるスポットの整備、ジンゾク狩り・ジンゾクたらいの復活、身近な水辺の自然再生のモデル（環境教育・エコツーリズム）、アユの利用・料理法、サイクリング・ジョギングロード、カヤック・吉野川下りエコツアー等

今後、3カ年で吉野川流域の生態系ネットワークづくりにむけた目標、基本方針の策定及び事業実施に向けた検討を行います。



検討委員会



ワークショップ